

2015 年 3 月 30 日

当社保有「日本の塗料工業の発祥を示す資料」の化学遺産認定のお知らせ

日本ペイントホールディングス株式会社

日本ペイントホールディングス株式会社（社長：酒井健二）が保有する「日本の塗料工業の発祥を示す資料」が、公益社団法人日本化学会より化学遺産として認定され、3 月 28 日（土）に認定証が授与されましたのでお知らせいたします。

洋式塗料の国産化は、1881（明治 14）年に当社の前身である光明社が設立されたことに始まります。茂木春太・重次郎兄弟は 1878 年に高純度亜鉛華の製法を確立し、翌 1879 年には洋式塗料である堅練り塗料の製造に成功しました。さらに、塗装現場で希釈する必要のない溶解塗料「塗具（ぬりぐ）」を開発し広く塗料が普及する始まりとなりました。当社には、光明社で製造された亜鉛華をはじめ、当時作られた塗板見本額など、日本における塗料工業の発祥とその変遷を示す貴重な資料類が保存されており、これらは化学遺産として価値あるものとして認められました。

「日本化学会化学遺産委員会」では、2009 年度から世界に誇る我が国の化学関連の文化遺産を認定しており、これまでに 29 件が認定されております。この度、当社の「日本の塗料工業の発祥を示す資料」を含む、新たに 5 件が化学遺産として認定されました。



今回授与された化学遺産認定証

<認定された化学遺産の一例>



1881(明治 14)年に塗られた塗板見本額



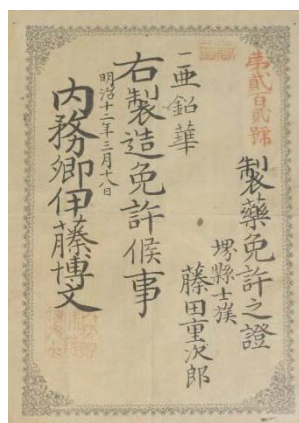
ボイル油製造設備



光明社看板



亜鉛華



亜鉛華の製薬免許証 (1879)

(ご参考) 公益社団法人 日本化学会 ホームページ 第6回化学遺産認定
<http://www.chemistry.or.jp/know/heritage/6.html>

以上